

大聖院：御成門

御成門は将軍や天皇など、位の高い個人が独占的に使用するための門です。御成門は重要な寺院や名高い貴族の地所に建てられ、通常改まった行事の際にのみ開かれました。大聖院の元の御成門は、明治天皇(1852-1912)の訪問のために 1885 年に建設されたものです。大聖院は宮島で唯一上段の間を持つ構造だったため、君主が島を訪れた際の臨時住居に選ばれました。この取り決めは、天皇の宿舎が側近の宿舎よりも高い位置にあることを保証するために採用されました。この門は 1885 年の明治天皇の訪問時に使われましたが、2 年後の火災で焼け落ちました。現在のものは 1914 年に再建され、そこを通った天皇はまだいません。現在では開いたままになっており、大聖院を訪れる人はその地位に関係なく通れるようになっています。